

# 渇水時における農作物被害防止対策

令和8(2026)年5月28日

河内農業振興事務所

鬼怒川上流4ダムの貯水量は、5月に入ってから平年よりも早いペースで減少しており、5月28日0時現在貯水率57%（平年比83%）となっています。

今後、農業用水が不足した際には、以下の技術対策に取り組み、水事情に合わせた効率的な利水に努めましょう。

## I 水 稲

### 1 早植栽培

- (1) 有効茎数を確保できたほ場は早めに間断かん水に入り、かけ流し等を行わない。  
急激に茎数が増加しているほ場・・・目標茎数の8割で間断かん水開始  
(県中南：350本/m<sup>2</sup>)  
通常の生育をしているほ場・・・・・・目標茎数の9割で間断かん水開始  
(県中南：400本/m<sup>2</sup>)
- (2) 除草剤を使用する際には、フロアブル剤やジャンボ剤等、水量を多く必要とするものは避け、粒剤や落水状態でも散布可能な茎葉処理剤を使用する。
- (3) 水田からの漏水を防止するため、畦畔にモグラ穴やザリガニ穴などが点検する。
- (4) 計画的な用水の利用について、地域で話し合うとともに番水方法などを確認する。

### 2 普通植栽培

- (1) 田植え前の対応
  - ア ていねいに畦塗り、代かき作業を行い、漏水を防止する。
  - イ 代かき、田植え作業では用水量に応じ、無駄なく水を利用する。
  - ウ 移植が遅れ育苗日数の延長が予想される場合、苗の徒長・老化を防止するため、次の対策を行う。
    - (ア) 苗箱へのかん水は、朝、十分にかん水し、日中は表面の土が乾いた部分のみ（特に苗箱の回りが乾きやすいので注意）かん水するなど極力かん水量を控える。  
なお、午後3時過ぎはかん水を行わないようにする。
    - (イ) 昼は換気を徹底し、夜間も外気温で管理する。ただし、強風時に苗に直接風があたると乾きやすいので注意する。
    - (ウ) 播種後25日を過ぎると（葉齢2.5葉程度）肥料切れにより苗が黄化するので、窒素成分で箱当たり0.5～1.0gを追肥する。追肥後は葉焼け防止のため清水をかける。
    - (エ) 苗が軟弱徒長（苗丈23cm以上）し、移植作業に支障を来す場合、以下に注意して剪葉により苗の老化を防ぐ。
      - ① カット部分は、（徒長苗の場合第2葉、健苗の場合第3葉）葉身の半分を剪定用はさみ等でカットする（移植時の苗丈18cmが目安）。
      - ② いもち病が発生しやすくなるので、防除基準に従い薬剤散布を行う。

## Ⅱ 大 豆

- (1) 発芽時や出芽後の干ばつは出芽遅延が発生するため、碎土、整地、播種後の覆土・鎮圧を丁寧に行い、播種後の乾燥による発芽不良を防ぐ
- (2) 開花前～莢伸長期にかけての干ばつは、花数の減少や落花・落莢の増加、粒が小さくなることが懸念される。本暗渠が施工してある水田では暗渠の排水弁を閉めるだけでも干ばつ対策となる。
- (3) 土壌が乾燥している場合の中耕培土は、水分をさらに奪い、根に強い乾燥ストレスを与えるため控える。作業は、雨後の適切な水分状態で行う（目安：中耕前10日間の降水量が20mm以下の少雨）。

## Ⅱ 園 芸

### 1 野菜・花き（露地栽培）

- (1) 敷きわらなどのマルチを行い、土壌水分の蒸発を防止する。
- (2) 計画的な用水の利用について、地域で話し合うとともに番水方法などを確認する。
- (3) 常時水を確保できる井戸による地下水利用を検討する。